

聖霊降臨節第 14 主日礼拝説教要旨(8 月 23 日)

『神の神殿』 早川 真牧師

コリントの信徒への手紙一 3:9-17

今朝の個所では、教会が一つの神殿であるということをパウロは言っています。教会にいろんな場所があるように一人一人にはそれぞれ異なる役割があります。ある人は柱のようで、ある人は屋根のようで、ある人は階段の手すりのものであるかもしれません。私たち一人一人は教会の一部であって必要のない部分はありません。

神の神殿を壊す者とは誰でしょうか。それはコリントの教会に当時あったように、教会の中で分派をつくり、互いに競い合ったり、排除し合ったりするものでありましょう。私たちがそのようにする時、それは神の神殿である教会を破壊することになります。それはキリストを再び十字架に付けてその身を裂くことと同じことです。教会は建物のことではなくイエス・キリストを信じる人々の集まりのことです。教会の一人一人は皆、キリストという土台の上に立つ者です。どれだけ分派を作ろうともキリストなしには立ち得ない者の集まりです。そのことを思う時に分派を作ることがどれほど意味のないことかを思わされます。

神は私たちの働きの心の動機をご覧になります。私たちの働きの源が神の愛であるか、それとも世の愛であるかをご覧になります。私たち自身の働きを振り返ると、その働きの動機がこの神の愛でなかったためにどれだけ神の神殿を破壊してきたかと思わされます。しかし神はそんな私たちに対しても恵みによってご自分の聖なる愛を与え続け、この、いつまでも残る神の愛によって神の神殿を立てあげることを私たちに願っておられます。小石川白山教会が、またキリストにあるすべての教会が、この神の愛によってますます形作られ、神の神殿として主の栄光を現すことができるように共に祈りを合わせたいと思います。